

令和7年度 第1回 三郷町介護保険運営協議会 議事録

日 時 令和7年8月28日(木) 午後3時00分から午後3時20分まで
場 所 三郷町福祉保健センター 健康増進指導室
出席者 (委 員) 紀川副会長、大浦委員、岡田委員、行委員、清水委員、山中委員、
山本委員、谷口委員
【事務局】 辰巳住民福祉部長、(長寿介護課) 大津課長、村田主幹、
(地域包括支援センター) 高塚所長
欠席者 周防会長
傍聴者 1名

○開 会

事務局

定刻となりましたので、只今より令和7年度第1回三郷町介護保険運営協議会を開催させていただきます。あと2名委員の方が遅れて来られますが、始めさせていただきます。

また、本日は1名傍聴の申請が出ております。許可させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<了承あり。傍聴者1名が入室>

それでは改めまして、本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日司会をさせていただきます、私、長寿介護課の大津と申します。この4月に異動となり、まだまだ何もわからないことばかりですが、皆様よろしくお願いいたします。

冒頭で、もう1点皆様にご報告させていただきます。周防会長ですが、本身体調不良ということで欠席のご連絡がございましたので、その旨報告させていただきます。なお、三郷町介護保険運営協議会設置条例施行規則第3条第2項に規定する定足数につきまして、過半数の委員の出席がございますので、この協議会が成立しておりますこともご報告させていただきます。

副会長挨拶

事務局

それでは、まず初めに紀川副会長よりご挨拶いただきたいと思います。副会長、よろしくお願いいたします。

副会長

本日、会長が体調不良で、代わりに議事を進行させていただくことになりました紀川と申します。よろしくお願いいたします。お忙しい中、またお暑い中、第1回介護保険運営協議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の案件は、令和6年度の決算及び事業報告となっております。委員の皆様

には、忌憚のないご意見を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

副会長、ありがとうございました。

それでは、本日の案件に入りたいと思います。議事の進行につきましては、施行規則第3条第1項及び第2条第4項の規定により、紀川副会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○案 件

(1) 令和6年度 三郷町介護保険特別会計決算(案)について

副会長

それでは議事を進めてまいります。案件の(1)『令和6年度三郷町介護保険特別会計決算(案)について』事務局より報告をお願いします。

事務局

失礼いたします。三郷町長寿介護課の村田と申します。改めまして、よろしくお願いいたします。私の方から、令和6年度介護保険特別会計(保険事業)決算(案)についてご説明させていただきます。

お手元資料の1ページをご覧ください。

まず、資料に記載はございませんが、被保険者数及び要介護認定者数でございます。65歳以上の第1号被保険者の数は7,010名で、前年度比60名の減、一方、要介護(要支援)認定者の数は1,390名で、前年度比18名の増となっており、わずか0.4%ではありますが、要介護認定率が伸びています。

それでは、令和6年度介護保険特別会計(保険事業)決算(案)の概要でございます。

歳入決算額は、23億5,667万845円。前年度比 約4,800万円の増となった主な要因は、歳出における保険給付費の増加に伴う社会保険診療報酬支払基金からの交付金が、前年度に比べて約1,600万円増加となったこと、繰越金が前年度に比べて約3,300万円増加となったことによるものです。

次に、歳出決算額は、22億8,845万300円。前年度比 約7,200万円の増となった主な要因は、要介護認定者(特に要支援者)の数が増加していること等により、保険給付費が前年度から約5,300万円増加となったこと、及び国県補助金の返還金が前年度よりも約1,900万円大きかったことによるものです。

そして、歳入歳出差引残額は、6,822万545円の黒字となり、令和7年度予算へ繰越しております。なお、国・県などへの返還金が 約4,500万円含まれていますので、これを差し引いた実質収支は、約2,290万円の黒字となっています。

1枚ページめくっていただき、資料の2ページをお願いいたします。

第9期介護保険事業計画と令和6年度決算(案)の比較でございます。一覧表の右下を見ていただければ分かりますように、介護給付費全体では、計画値を下回っている状況です。

個々に見ていきますと、居宅介護サービス等給付費では、「訪問看護」や「通所介護(デイサービス)」が計画値を大きく上回る一方、「短期入所生活介護(特別養護老人ホームのショートステイ)」や「特定施設入居者生活介護(有料老人ホー

ム等)」が大きく下回り、地域密着型サービス給付費では、通い・訪問・宿泊の各サービスを包括的に利用できる「小規模多機能型居宅介護」が計画値を上回っているほかは、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」や「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（地域密着型の特別養護老人ホーム）」が大きく下回っています。また、施設介護サービス給付費では、自宅での生活が困難な要介護者でリハビリや介護サービスなどを受けながら在宅復帰を目指す「介護老人保健施設（老健施設）」が計画値を上回る一方、寝たきりや認知症で日常生活において常時介護が必要で、自宅では介護が困難な方が入所する「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」は大きく下回っている状況です。

これら介護給付全体の大まかな特徴として、施設サービスよりも居宅サービスにおいて計画値を上回る傾向にあり、可能な限り住み慣れた地域で、例えば自宅でなくてもアットホームな雰囲気の中で生活を続けたいという方が、想定より多くいらっしゃると思えます。

令和6年度は、第9期介護保険事業計画の初年度に当たりますが、金額の上では計画値を下回っているものの、件数ではこれを上回っており、比較的健全に事業運営できたものと考えております。

令和6年度 介護保険特別会計（保険事業）決算（案）についての説明は、以上でございます。

副会長

以上の報告について、ご意見・ご質問のある方よろしく申し上げます。

<質問等なし>

○案 件

（2）令和6年度 三郷町地域包括支援センター事業報告について

事務局

それでは、案件の（2）『令和6年度三郷町地域包括支援センター事業報告について』ご説明させていただきます。地域包括支援センターの高塚です。よろしくお願いいたします。

お手持ちの資料の3ページ、資料2をお願いいたします。なお、事業報告につきましては、資料の中から主要な事項を中心にご説明いたします。

今年度も包括的支援事業をはじめ、在宅医療・介護連携推進、認知症対策、介護予防、高齢者の安全運転教室、地域ケア会議の開催など、多岐にわたる取り組みを実施してまいりました。

まず、包括的支援事業です。介護予防ケアマネジメントでは、3,140名のプラン作成・チェックを行いました。また、権利擁護や総合相談など、地域住民の方の多様な相談に対応し、延べ1,012件の支援を行いました。さらに、ケアマネジャーに対する支援研修や事例検討会なども実施し、支援体制の強化に努めました。

次に、在宅医療・介護連携推進事業です。医療と介護の切れ目のない連携を目指し、広域7町で行う西和メディケアフォーラムや、生駒郡4町で行う生駒郡地域ケア会議を実施いたしました。また、専門職からの在宅医療・介護に関する相談対応は31件。住民への普及計画として、人生会議をテーマにしたシンポジウ

ムを生駒郡4町で開催いたしました。人生会議とは、将来、もしも自分で医療や介護の希望が伝えられなくなった場合に備え、あらかじめ自分らしい生き方やどのような医療・介護を受けたいかを考え、家族や医療・介護の専門家と繰り返し話し合い、共有するものです。シンポジウムには、住民の方がテーマの違う町（会場）でも参加できる形で開催いたしました。住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、人生会議の大切さを共有する機会となりました。

続いて、認知症対策です。認知症サポーター養成講座を4回開催いたしました。また、家族・介護者教室や認知症カフェを開催し、本人や家族の交流や支援の場を提供いたしました。さらに、オレンジランブ映画会には126名が参加し、地域全体で認知症に対する理解を深める機会となりました。

次に、介護予防の推進です。スマホ教室やヤングシニア大学、今年度からの新規事業である保健事業と介護予防の一体的実施事業など、多様な取り組みを行いました。保健事業と介護予防の一体的実施事業は、健康づくりと介護予防を合わせて進める取り組みとなっており、いきいきクラブや百歳体操を実施している地域に訪問し、フレイル予防や自らの健康状態について知っていただく機会となりました。スマホ教室では、卒業後のサークルへの支援もあり、生活の質の向上や社会参加の促進につながりました。ヤングシニア大学では、フレイル予防を中心に、元気な高齢期の継続を目指しました。

次に、高齢者の安全運転教室では、30名の方が参加し、安全な運転を支援するとともに、認知機能検査模擬テストも行い、運転継続や免許返納の判断材料として活用していただきました。

最後に、地域ケア会議です。個別事例36件を取り上げ、多職種で協議することで、より具体的な支援方法を検討しました。令和6年度も地域の医療・介護・福祉の連携を図りながら、多様な事業を展開いたしました。

今後も住民の方が安心して暮らし続ける地域づくりのために、さらに取り組みを進めてまいります。説明は以上です。

副会長 ありがとうございます。今のご報告に対しまして、何かご質問のある方、お願いします。

委 員 高齢者の安全運転教室の参加について、どのように募集されるのですか。

事務局 町の広報誌で、いつもご案内をさせていただいております。一応、定員は20名としているのですが、いつも少しオーバーして30名とか35名になっている教室です。

委 員 どちらで開かれているのですか。

事務局 開催場所は、人数の加減でこちらの健康増進指導室であったり、大会議室であったり、変更しながら行っています。

委 員 1年間すごく活躍、活動されていると思います。また、これもすごく良いことだと思うのが、医療と介護の連携であるとか、生駒郡や広域7町で取組まれて

いることと、あとは人生会議ですね。生駒郡でやっておられるということは、震災や大規模災害などの際に何かの形で役立つでしょうし、こういう風に連携を図られている素晴らしいことを継続して頑張っていただきたいと思います。

委 員

ヤングシニア大学は、フォローなどもされていらっしゃるのですか。

事務局

例えば3月に1クール3回行いまして、その半年後もう一度実施させていただいています。3月にお体の状態、筋肉量や水分量、体のバランス等を測らせていただいて、それが半年後、フレイルを学んでいただいたことで維持できているのか、低下しているのかというところをフォローさせていただき、低下しているのであれば、なぜその生活で低下していたか、何が足りなかったかということをアドバイスさせていただいています。

委 員

経済虐待とかよく聞くのですが、高齢者虐待についてもフォローされているのですか。

事務局

最近多いのが、高齢者のご夫婦の夫婦喧嘩からDV・暴力に発展していった虐待の件数が増えております。警察の方からも連絡があったり、近隣の方の通報やケアマネジャーさんからの通報等もありますので、虐待に関しては全てこちらの方で面談をさせていただき、最終フォローまでさせていただいております。

委 員

社会福祉協議会も福祉のことで関わられていて、ぼんやりとは分かるのですが、地域包括支援センターとは役割が全然違うのですか。

事務局

地域包括支援センターには専門職3名がおり、私は社会福祉士、あと主任ケアマネジャーと看護師がおりますので、それぞれの専門性にあった相談に乗らせていただいているところが、社会福祉協議会の相談とは違うところっております。

○閉 会

副会長

他に何かございませんか。無いようですので、以上をもちまして、令和7年度第1回三郷町介護保険運営協議会を閉会いたします。

皆様、ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。事務局の方より、最後に1点だけお願いです。

今年度中にもう一度開催させていただきたいと考えております。日程につきましては、会長と調整の上で決めさせていただきますので、その時はまたよろしくお願いいたします。

委 員

大体いつくらいですか。

事務局

2月頃を予定しております。よろしくお願いいたします。